

両手の掌を下に向け、左右から相宿らしめて両手をつけ合わす。つまり両手で「」の線を描いたわけ。即ちビルの輪郭。

建てる 造る——建物。

妥当 「適する」と同じ手まね。

たとえ——でも 仮りに——しかし。

例えば 「仮りに」と同じ手まね。

頼む 右手拳で左手腕の上を叩たいて右手を開いて拜む。

煙草 人差指と中指で煙草を挟さんだ恰好

で口許に二指を持って行き吸う真似。

足袋 掌を上向けた左手の手の首のところ

で、右手で足袋のこはぜをかるけ真似。

旆 指頭を上にした人差指と中指の両手

を顔の左右から同時に前方へ小刻さみに進ませて行く。

度々 「屢々」と同じ手まね。

多分 (1)「多分にある」とか「多分に頂き

まして」の場合。「多く」「沢山」の手まね。
(2)「多分……でしょう」の場合。と「思う」の手まね。

狸 狸の腹鼓を表わす。即ち掌を内側にした両手で、交互に腹を叩たく身振り。

多忙 「忙しい」と同じ。

他人 掌を内側にして、五指の指頭を左に

さした右手を右頬に直角につけ、前へ弾ねるように離す。骨肉(頬)とは拘りがないこと

脱線 五指の指頭前方にさし掌を右側にし

た左手の上(親指の背の上)に、これも五指の指頭前方にさし掌を左側にした右手を(小

指の背か下の左手の親指の背に)載せ、上の

右手を左手の上をまっすぐに這らせて行って

(軌道の上を車が這って行く)途中で、その

右手を左手から左の方へそらせ落す。即ち軌道から外れたこと。「墮落」と云う意味にも

なる。

騙ます 掌を下に向け五指の指頭を右にさした左手の手首辺の下から指頭を上にした五指を彎曲して掌を前に向けた右手をくぐらせて前に突き出す。

びっくり箱から何にかを突き出して人を騙まし驚かすのを表わしたもの。

騙まされる 掌を上向けて五指の指頭が夫々の指のつけ根につくように屈折させた手を顎の下直角に手首でつけてから、がくりとその手を下へ落す。騙まされて唖然と顎を落した様。

たまらない (イ) 辛抱——出来ない。(ロ)

諦める——出来ない。

黙る 黙れ 指頭を上にした人差指で口を塞ぐ。

玉 親指の指頭に他の四指の指頭を集め合せてつけ、手を丸い姿態にする。玉の形。

卵 「玉」を表わして丸くした手の内部に

出来た丸い空洞を片方の眼で覗き見る。その時その手を僅かにくるくる廻わす。卵の新しさを検らべるのに電灯にかざして覗くことから来た手まね。

為に 「関係」と同じ手まね。

駄目 (イ) 「いけない」「悪い」と同じ手まね。(ロ) 「私は酒が駄目です」の場合の「駄目」。私—酒—飲む—むづかしい。(ハ) 「この絵は駄目だ」の場合の駄目。絵を指して、人差指で空間に(ベケ)を書く。

験めす 「試みる」「試験」と同じ手まね

足らぬ (イ) 「貧しい」と同じ手まね。(ロ)

「百には十足らぬ」の場合。百—まだ—十足 (イ) 数(金銭等)——大丈夫。(ロ)

数—ちやうど。

頼よる 任かせる——頼のむ。

墮落 (イ) 「脱線」と同じ手まね。(ロ) 男

性(或は女性)を表わした右手を下へ落して